

令和6年度

子どもの読書活動実態調査アンケート

調査報告

令和7年3月

稲美町

1. 調査目的

稲美町の子どもたちを取りまく読書環境を充実させていくうえで指針となる「子どもの読書活動推進計画」の策定にあたり、稲美町の児童、生徒および保護者に対し、読書に関する意識や読書実態を把握するため、この度「子どもの読書活動実態調査」を実施した。

2. 調査概要

- ・調査対象：＊町立小学校の児童および町立中学校の生徒
＊就学前後の子どもをもつ保護者
- ・調査期間：令和6年12月
- ・調査方法：配布、回収（タブレットやスマートフォン等を使用したウェブアンケート）

3. 回収状況

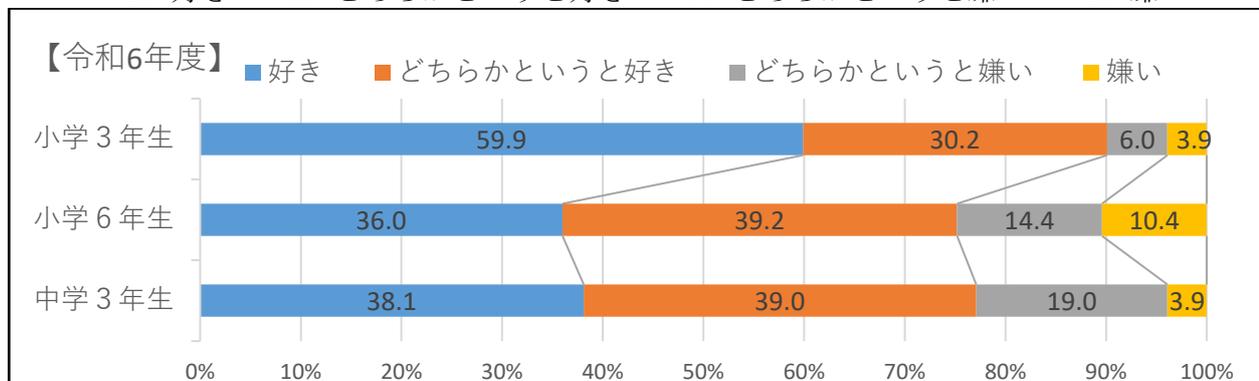
対 象	対象人数（人）	回答数（回）	回収率（％）	
小学校（5校）	小学3年生	240	232	96.7
	小学6年生	278	250	89.9
小計	518	482	93.1	
中学校（2校）	中学3年生	270	205	75.9
児童・生徒合計	788	687	87.2	
保護者	4歳児	78	57	73.1
	小学1年生	267	209	78.3
保護者小計	345	266	77.1	
総合計	1,133	953	84.1	

4. 調査の結果

本人回答分（小学3年生・小学6年生・中学3年生）

問1 あなたは読書は好きですか

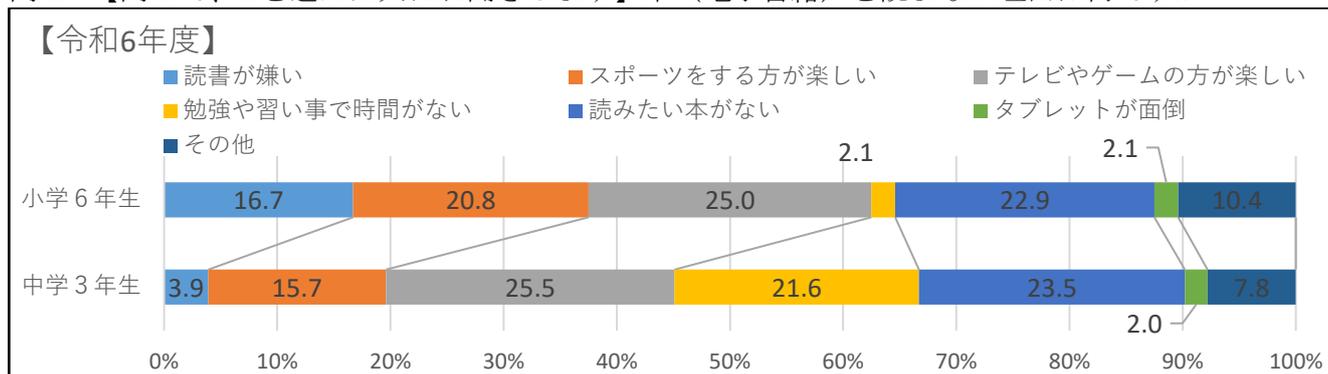
1. 好き 2. どちらかという好き 3. どちらかという嫌い 4. 嫌い



「好き」・「どちらかという好き」の割合は学年が上がるにつれて減少する傾向がみられますが、「好き」の割合は小学6年生36.0%、中学3年生38.1%と増加し、「嫌い」の割合は小学6年生10.4%、中学3年生3.9%と減少している。

結果として学年が上がっても、読書が好きな割合が増加することも期待できる。

問4 【問2で、4を選んだ人にお聞きします】本（電子書籍）を読まない理由は何ですか

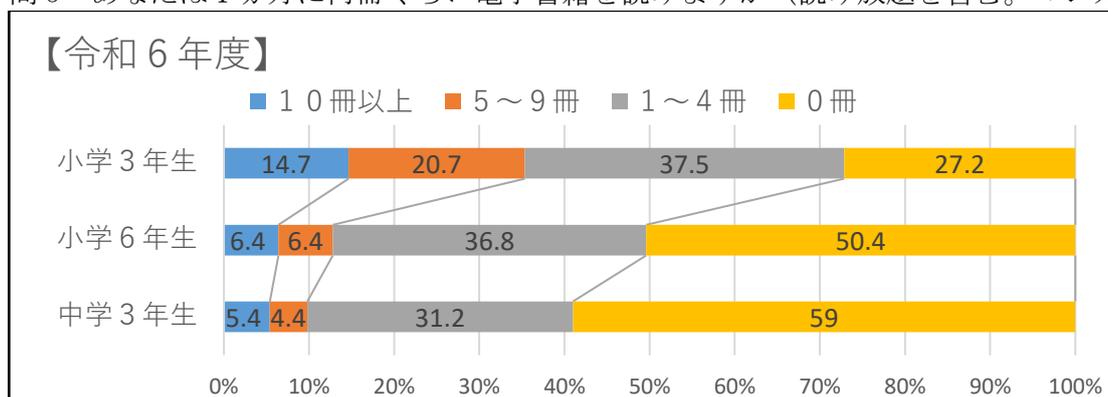


※小学3年生は、問2で0冊と回答した人は13人ありましたが、問4の回答はありませんでした。

「テレビやゲームの方が楽しい」・「読みたい本がない」がどちらの学年も多く、「勉強や習い事で時間がない」の割合が小学6年生と比べ、中学3年生では10倍近く増加している。

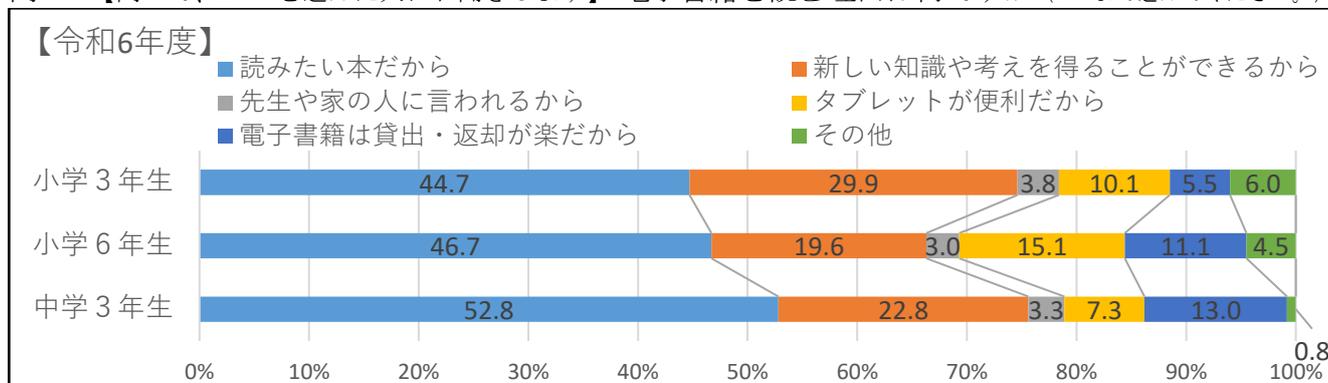
結果として読まない理由は様々であり、「読書が嫌い」の割合は、小学6年生は16.7%、中学3年生では3.9%と大きく減少している。

問5 あなたは1ヵ月に何冊くらい電子書籍を読みますか（読み放題を含む。マンガは除く。）



「1～4冊」読む割合は学年が上がるにつれて減少し、「0冊」の割合は増加していく傾向がみられる。結果として「0冊」の読まない割合が小学3年生は27.2%、小学6年生は50.4%、中学3年生では59%と小学3年生と比べ、倍以上に増加し、小学6年生と中学3年生では過半数以上となっている。

問6 【問5で、1～3を選んだ人にお聞きします】電子書籍を読む理由は何ですか（2つまで選んでください。）

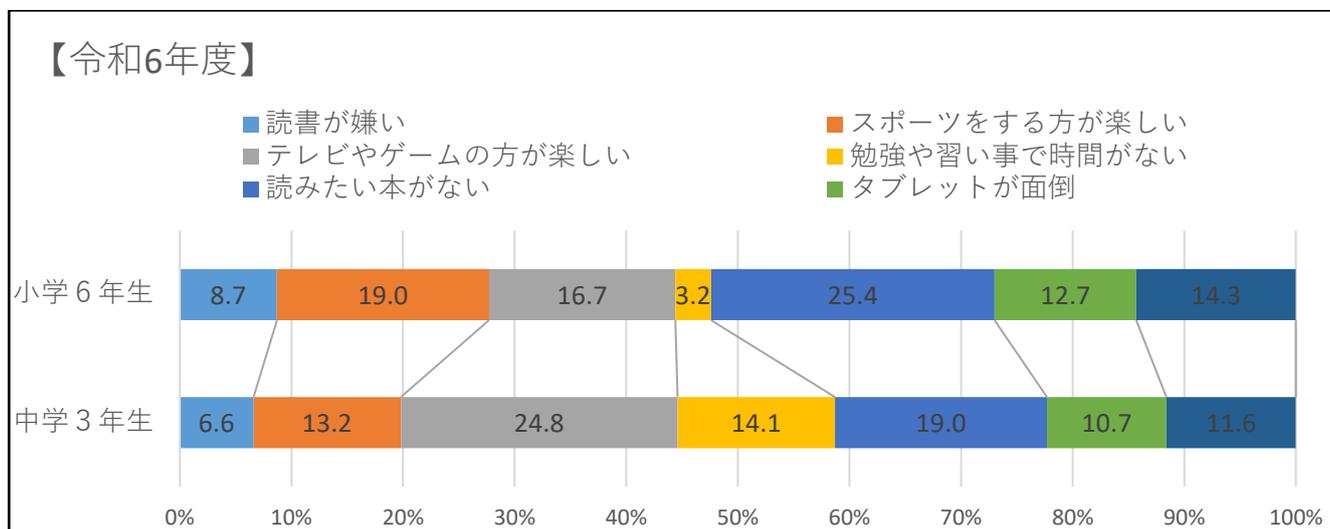


「読みたい本だから」がどの学年でも半数であり、次いで「新しい知識や考えを得ることができるから」の割合が高い。「電子書籍は貸出・返却が楽だから」が、学年が上がるにつれて微増している。

結果として電子書籍を読む理由は、学年が上がることではあまり変化せず、「読みたい本だから」読むという素直な理由がみられる。

問7 【問5で、4を選んだ人にお聞きします】電子書籍を読まない理由は何ですか

1. 読書が嫌い
2. スポーツをする方が楽しい
3. テレビやゲームの方が楽しい
4. 勉強や習い事で時間がない
5. 読みたい本がない
6. タブレットが面倒
7. その他 ()



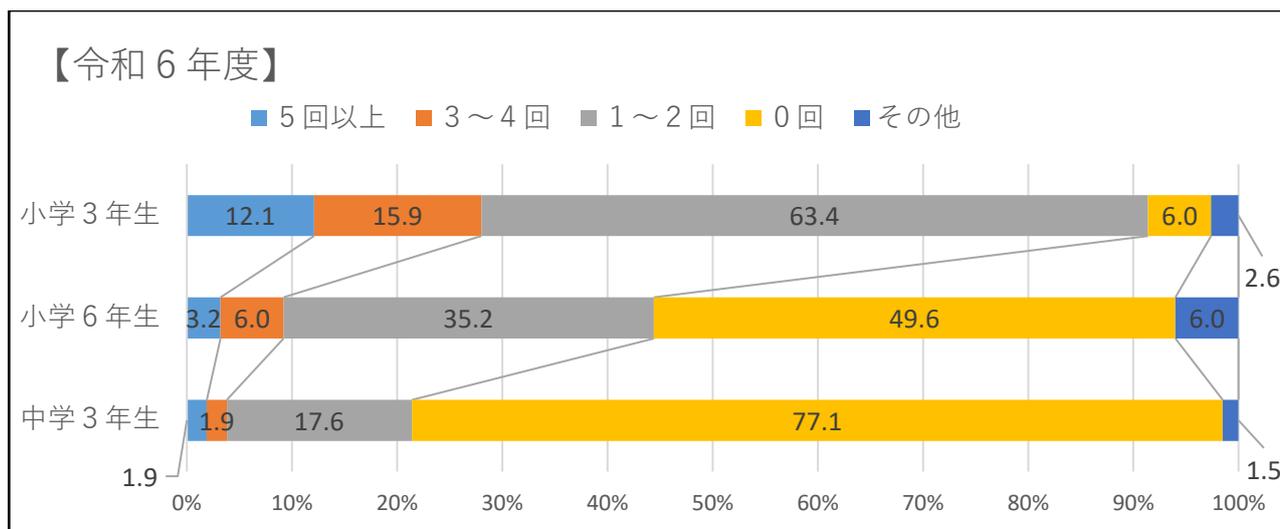
※小学3年生は、問2で0冊と回答した人は63人ありましたが、問7の回答はありませんでした。

「テレビやゲームの方が楽しい」・「読みたい本がない」がどちらの学年も多く、「勉強や習い事で時間がない」の割合が小学6年生と比べ、中学3年生では4倍近く増加している。

結果として読まない理由は様々であり、「読書が嫌い」の割合は、小学6年生は8.7%、中学3年生では6.6%と減少している。

問8 あなたは1週間に何回くらい学校の図書室を利用しますか（授業で行く場合を含む。）

1. 5回以上
2. 3～4回
3. 1～2回
4. 0回
5. その他 ()



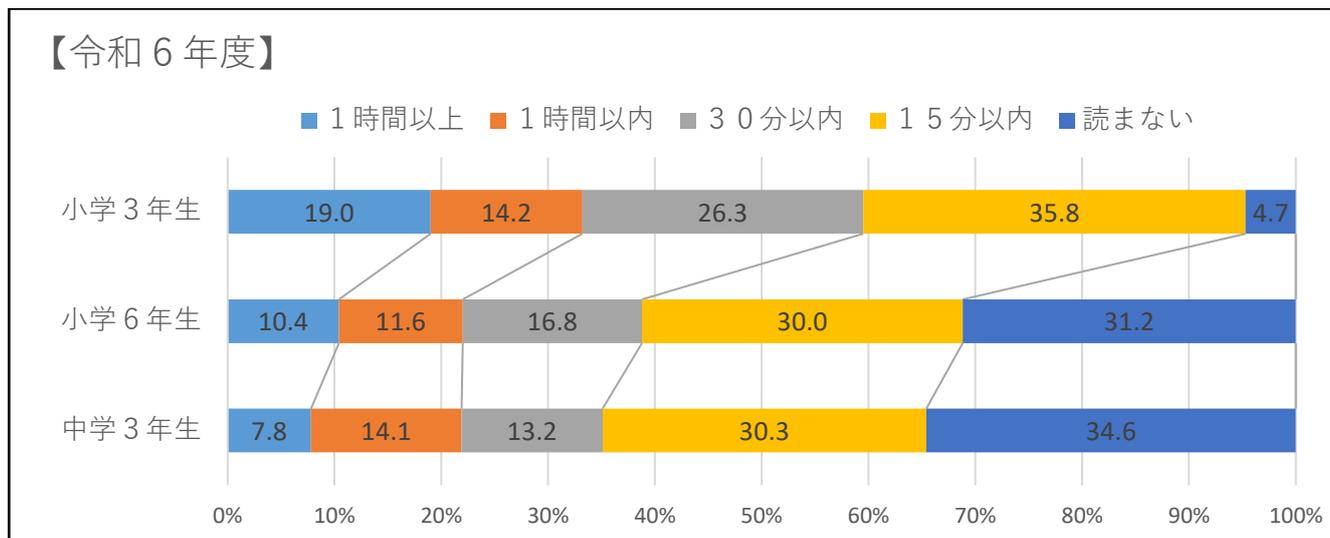
「1～2回」・「3～4回」・「5回以上」利用する小学3年生は9割以上なのに比べ、小学6年生は半数以下、中学3年生では2割強と急激に減少していく傾向がみられる。

結果として「0回」の利用しない割合が小学3年生は6.0%、小学6年生は49.6%、中学3年生では77.1%と小学3年生と比べ利用する・しない率の逆転現象がみられる。

問9 あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか

(朝読・図書の時間は含まない。電子書籍は含む。)

1. 1時間以上 2. 1時間以内 3. 30分以内 4. 15分以内 5. 読まない

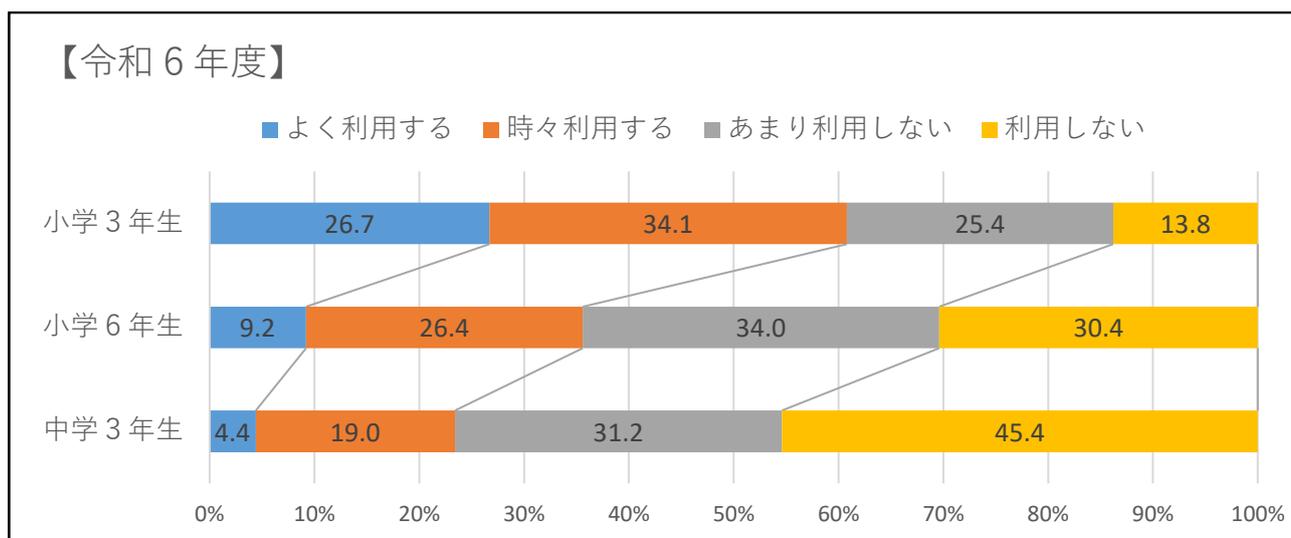


全体的に学年が上がるにつれて読む時間は減少していき、「読まない」の割合は大幅に増加していく傾向がみられる。

結果として「読まない」割合が小学3年生は4.7%、小学6年生は31.2%、中学3年生では34.6%と小学3年生と比べ、7倍以上増加している。ただし、長時間読書する割合は減少しているが、どの学年も過半数は毎日読書をしている実態がみられる。

問10 あなたは学校以外の図書館を利用しますか

1. よく利用する 2. 時々利用する 3. あまり利用しない 5. 利用しない

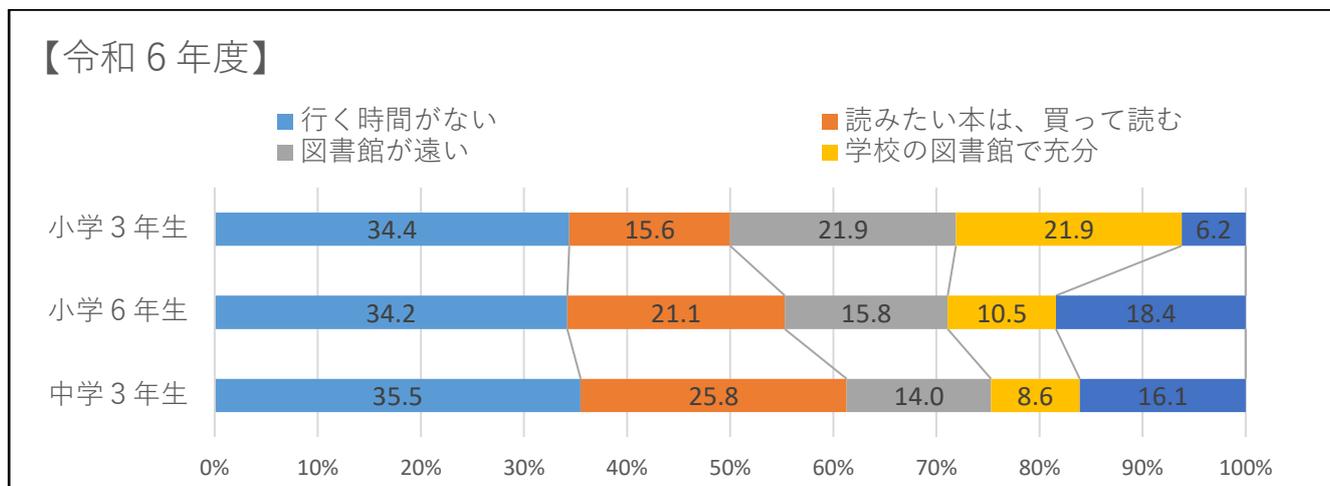


「よく利用する」・「時々利用する」は学年が上がるにつれて減少していき、「利用しない」の割合は大幅に増加していく傾向がみられる。

結果として「利用する」割合が小学3年生は60.8%、小学6年生は35.6%、中学3年生では23.4%と小学3年生と比べ、大幅に減少しており、逆に「利用しない」が半数近くになっている。

問 11 【問 10 で、4 を選んだ人にお聞きします】 学校以外の図書館を利用しない理由は何ですか

1. 行く時間がない
2. 読みたい本は、買って読む
3. 図書館が遠い（校区外）
4. 学校の図書館で充分
5. その他（ ）



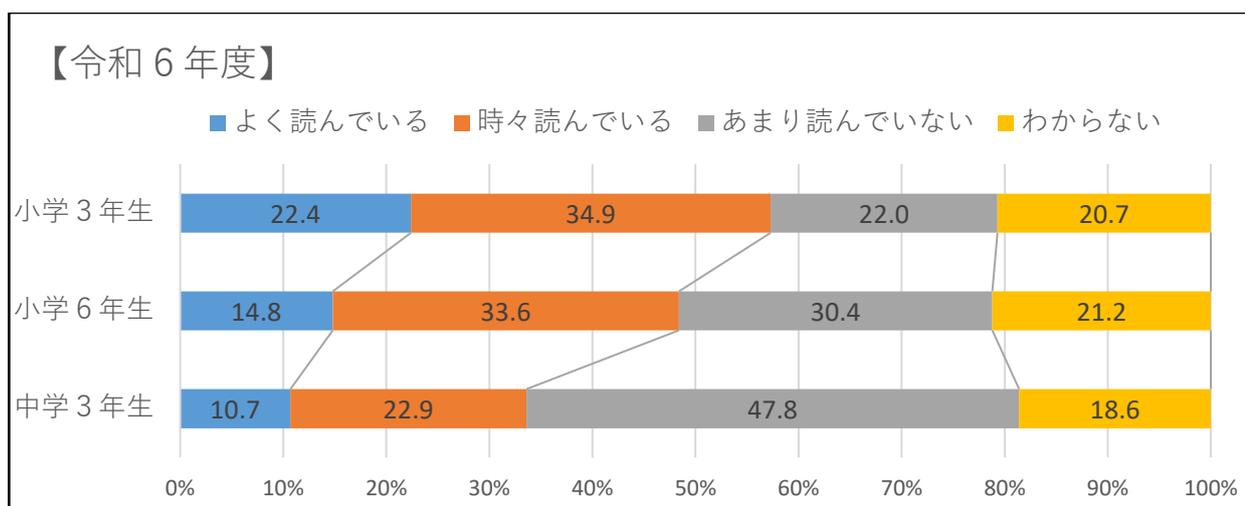
「行く時間がない」がどの学年もほぼ同じ割合の理由となっている。

学年が上がるにつれて「読みたい本は、買って読む」の割合が増加していく傾向がみられる。

結果として学校以外の図書館は、時間に余裕がなければ利用できない（しない）と捉える傾向があり、学校の図書館で不足する読みたい本（人気の新しい本など）は、買って読む傾向がみられる。

問 12 家の人、普段本を読んでいますか

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

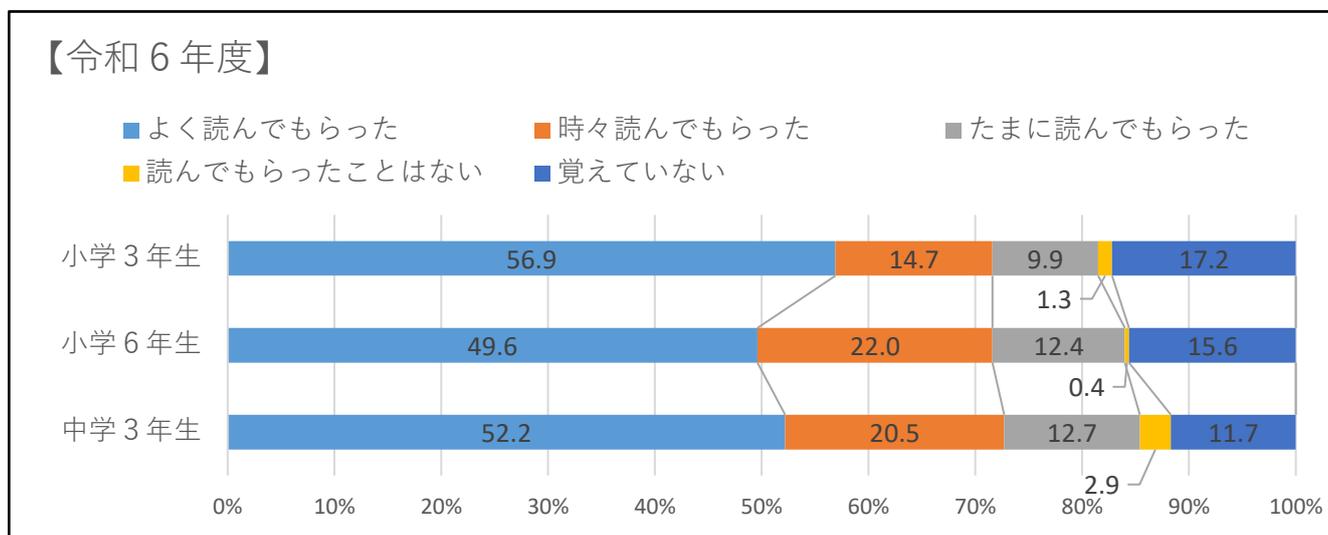


「よく読んでいる」・「時々読んでいる」保護者の割合は、学年が上がるにつれて減少し、「あまり読んでいない」の割合が増加していく傾向がみられる。

結果として問 10 の学校以外の図書館を利用する機会が、学年が上がるにつれて減少する子どもに比例して、保護者も子どもの学年が上がるにつれ、読書から離れる傾向がみられる。

問 13 あなたは小さいころ、家の人に本を読んでもらいましたか

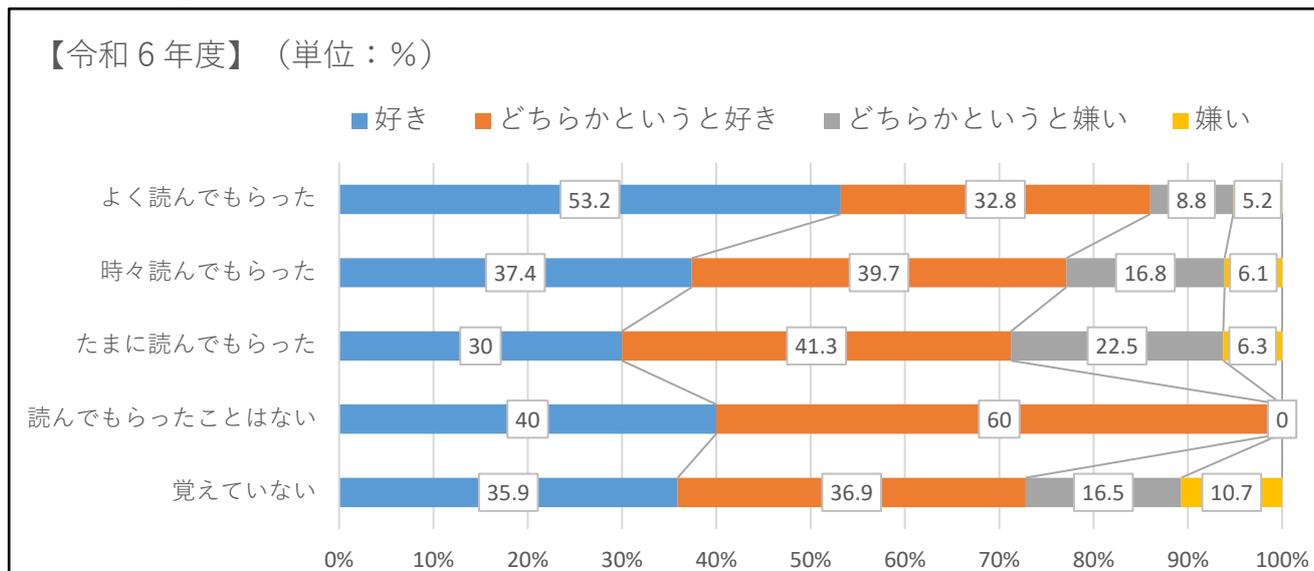
1. よく読んでもらった
2. 時々読んでもらった
3. たまに読んでもらった
4. 読んでもらったことはない
5. 覚えていない



「よく読んでもらった」・「時々読んでもらった」割合は、どの学年でも 7 割を超えており、読み聞かせが定着していることがうかがえる。

結果として小学 3 年生から中学 3 年生までは 6 年経過しているにも関わらず、読み聞かせをしてもらった記憶は子どもにはっきりと残っており、本に親しむきっかけや読書好きな児童・生徒の土台となっている。

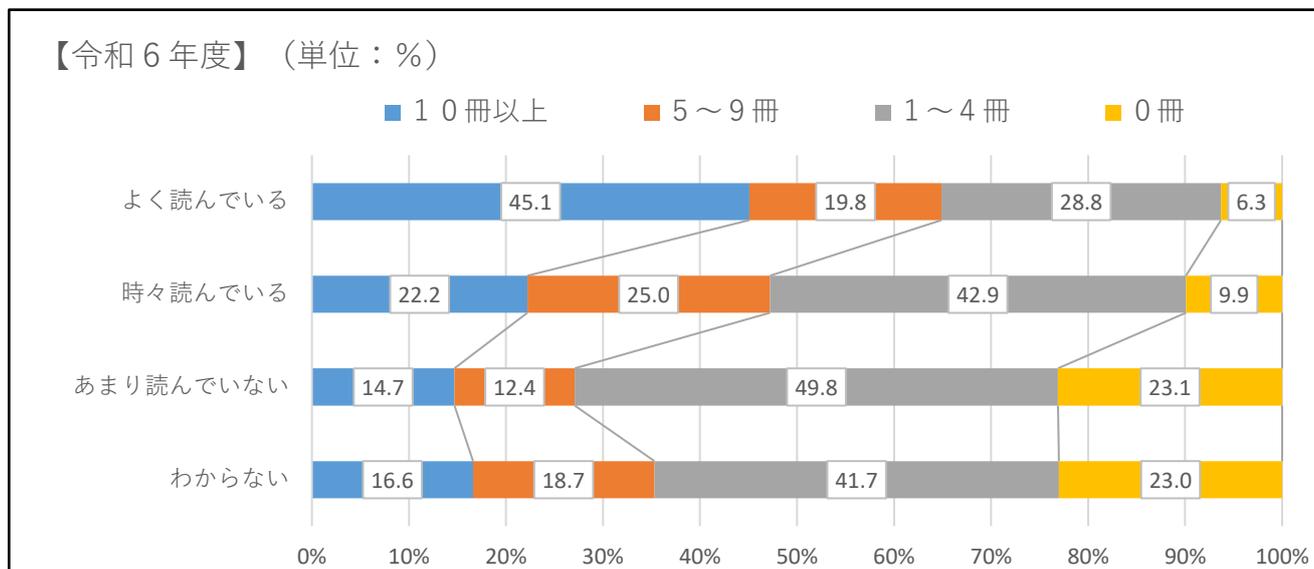
相関グラフ①（問 13 と問 1）家の人の読み聞かせと子どもの読書好きの相関について



「よく読んでもらった」子どもは、「好き」の割合が高く、「時々読んでもらった」・「たまに読んでもらった」子どもは、「好き」の割合が順に低くなり、「嫌い」の割合が高くなっている。

ただし、「読んでもらったことはない」子どもの回答は「好き」が 100%で、「嫌い」は 0%になっている。

相関グラフ②（問 12 と問 2）家の人の読書傾向と子どもの不読率の相関について



本を「よく読んでいる」保護者の子どもは、本を読む割合が高く、「時々読んでいる」・「あまり読んでいない」の順に子どもの本を読む割合が低くなっている。

《相関グラフ①②からの現状と課題》

子どもは、小さいころ家の人に読み聞かせをしてもらったことや、普段から家の人の本を読んでいる姿に強く影響を受け、家庭内で読書習慣を獲得していることがグラフから読み取れる。

子どもに読書の楽しさを伝え、実感する場として家庭内での読書を重視しつつ、保護者を含めた地域・学校等全体での読書活動の取組を進めることが課題となる。

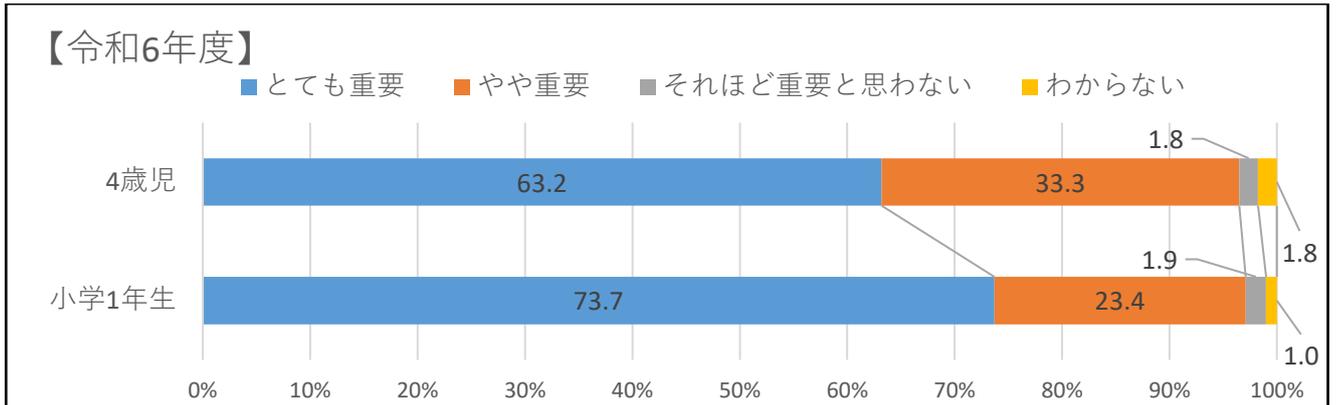
保護者回答分（4歳児・小学1年生）

問1 あなたのお子さんは、どちらにあてはまりますか

1. 4歳児
2. 小学1年生

問2 子どもの豊かな心を育むうえで読書は重要だと思いますか

1. とても重要
2. やや重要
3. それほど重要と思わない
4. わからない

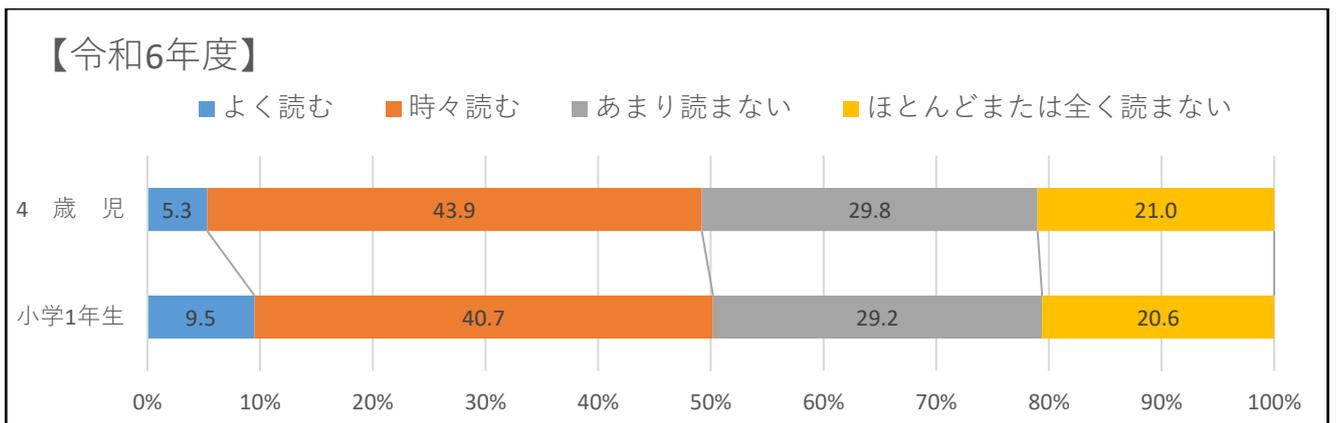


「とても重要」の割合は、4歳児は63.2%、小学1年生は73.7%とやや増加しているが、「やや重要」と合算するとどちらの学年もほぼ同じ割合になっている。

結果として就学前後の保護者は「子どもの豊かな心を育むうえで読書は重要」と大多数が思っている結果となっている。

問3 あなたは普段本を読みますか

1. よく読む
2. 時々読む
3. あまり読まない
4. ほとんどまたは全く読まない



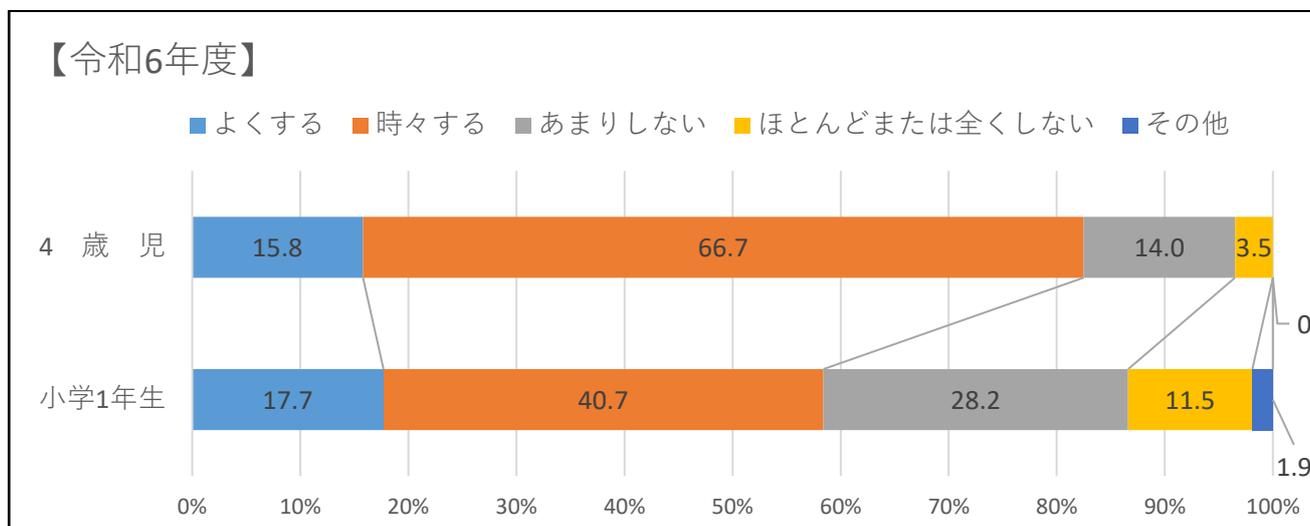
「よく読む」・「時々読む」の割合は、どちらの保護者もほぼ同割合で、「あまり読まない」・「ほとんどまたは全く読まない」の割合も、どちらの保護者もほぼ同割合になっている。

結果として「よく読む」の割合のみ、4歳児保護者5.3%、小学1年生保護者9.5%と増加している以外は、大きな割合の違いはみられない結果となっている。

小学3年生へのアンケート設問12で同様の問をしているが、割合や傾向の整合性がみられない。（問の内容で、児童は絵本を含めた保護者の読書を多いと捉え、保護者は絵本を除く大人用の本に対する読書と捉えた可能性がある。）

問6 お子さんに絵本の読み聞かせをしますか

- 1. よくする
- 2. 時々する
- 3. あまりしない
- 4. ほとんどまたは全くしない
- 5. その他 ()

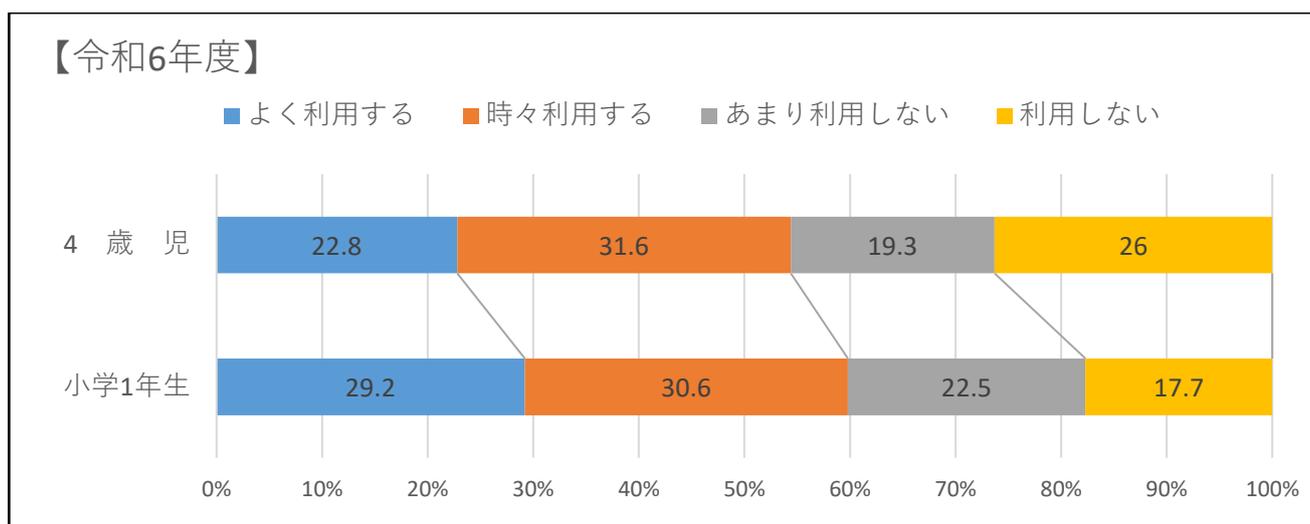


「よくする」の割合は、どちらの保護者も近い割合になっているが、「時々する」の割合は、4歳児は66.7%、小学1年生は40.7%と大きく減少した割合となっている。

どちらの学年の保護者も過半数は読み聞かせを継続している割合となっているが、小学1年生の保護者は「あまりしない」・「ほとんどまたは全くしない」割合が大きく増加する学年となっている。

問7 あなたは稲美町立図書館を利用しますか

- 1. よく利用する
- 2. 時々利用する
- 3. あまり利用しない
- 4. 利用しない

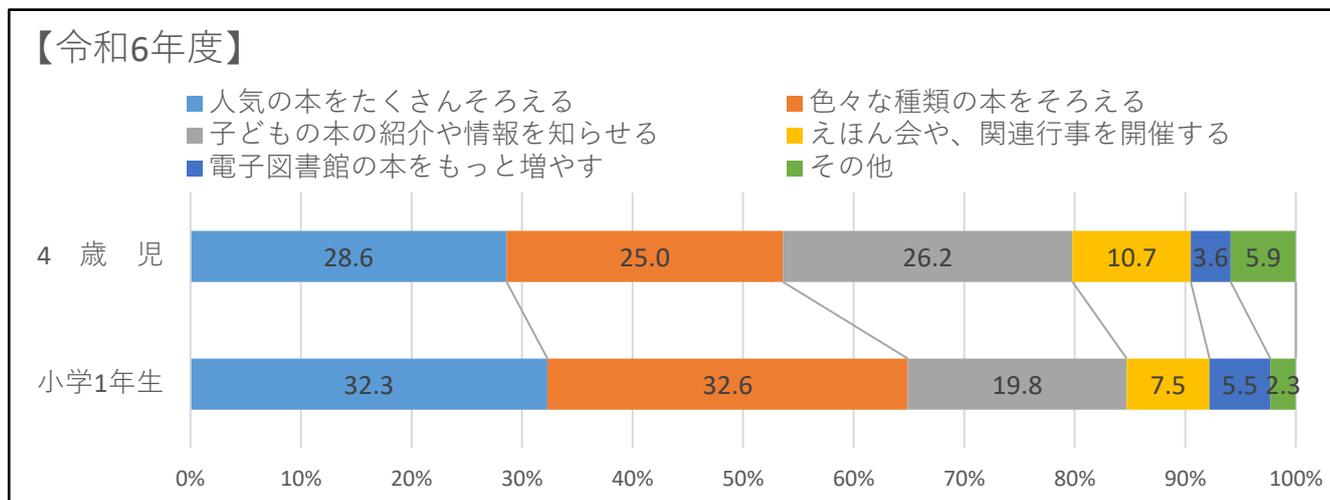


全体的に学年で大きな差はなく、4歳児保護者より小学1年生の保護者の方が、少しだけ利用割合が増えている。

ただし、小学生へのアンケート設問10で同様の問をしているが、「よく利用する」・「時々利用する」は学年が上がるにつれて減少していき、「利用しない」の割合は大幅に増加していく傾向がみられる。

問8 お子さんの読書のために、稲美町立図書館にどんなことを望みますか（2つ以内）

1. 人気の本をたくさんそろえる
2. 色々な種類の本をそろえる
3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. えほん会や、関連行事を開催する
5. 電子図書館の本をもっと増やす
6. その他（ ）

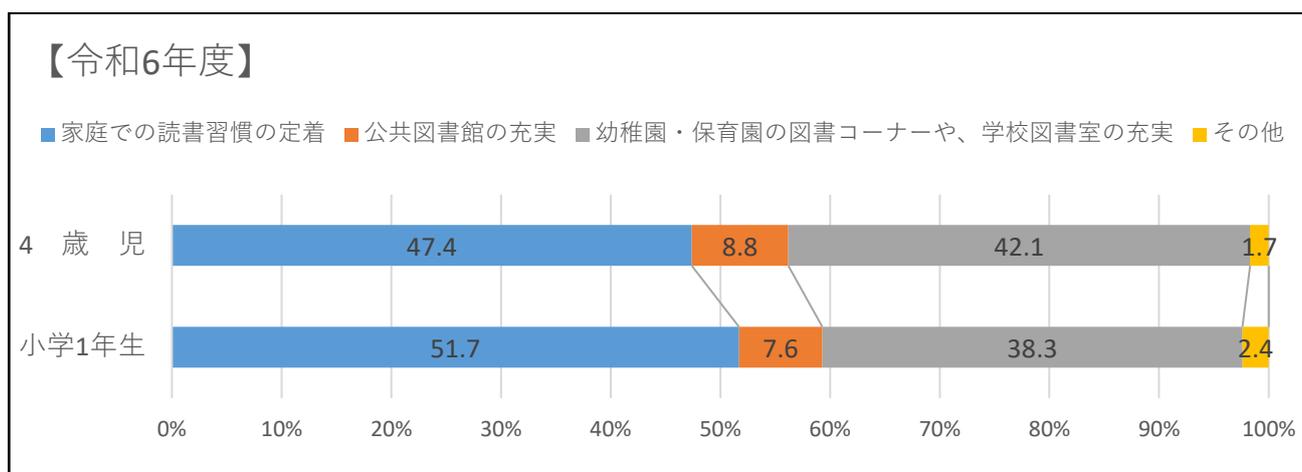


「人気の本をたくさんそろえる」・「色々な種類の本をそろえる」・「子どもの本の紹介や情報を知らせる」の3つの割合がどちらの学年の保護者も多く、学年で大きな差はない。

小学生になり、1人1台端末としてタブレットを交付されたことで「電子図書館の本をもっと増やす」の増加につながっている。

問9 子どもの読書活動を推進するうえで、最も重要だと思うものはどれですか

1. 家庭での読書習慣の定着
2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや、学校図書室の充実
4. その他（ ）



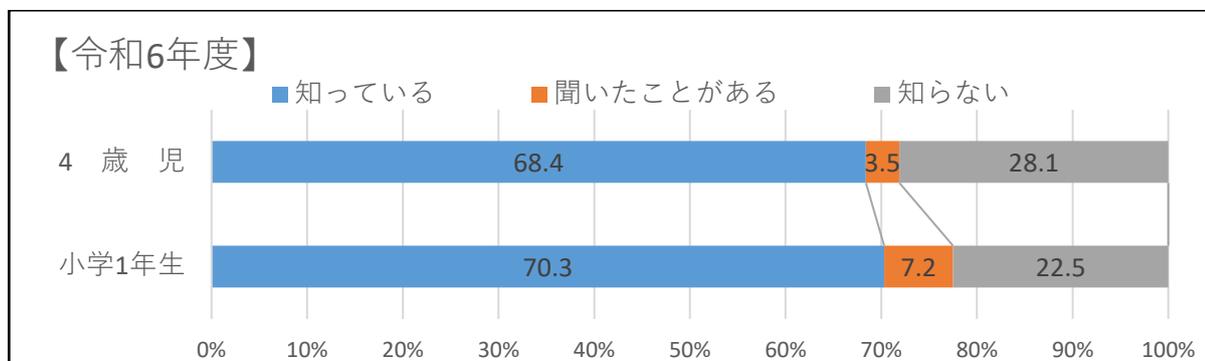
「家庭での読書週間の定着」・「幼稚園・保育園の図書コーナーや、学校図書室の充実」の2つがほぼ半数の割合であり、学年で大きな差はない。

保護者が学校からのアンケートに回答した結果のためか、「公共図書館の充実」は少数派となっており、家庭と学校・園との連携に公共図書館も加わり、関係性を深めることが重要かもしれない。

問 10 稲美町が4カ月児健診時に実施している「はじめての絵本運動（ブックスタート）」をご存じですか

（4カ月児健診時に、絵本やお勧め絵本リスト、図書利用カードをブックスタートパックとしてプレゼントし、乳幼児期からの読み聞かせの大切さをPRしています。）

1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない



「知っている」の割合が4歳児保護者68.4%、小学1年生保護者70.3%で大半の保護者に認識されている。

ただし、「知らない」の割合も2割以上あるため、転入などでプレゼントをもらっていない保護者にも継続して図書館から読み聞かせの大切さをPRしていく機会を設けることが重要になってくる。